



「これからの生涯スポーツを考える！」

今回は、生涯スポーツの現状と社会環境の変化に伴う子どもたちの体の様子、総合型スポーツクラブの役割について感じた事を載せさせていただきます。

今回は、なぜ今「総合型地域スポーツクラブ」なのか？について考え、地域・住民のニーズを取り入れながら活動しているスポーツクラブをご紹介します。

まず、なぜ「総合型地域スポーツクラブ」なのか？子どもたちの運動について、学校教育から見てみますと、学校の運動部(部活動)は小学校から大学までそれぞれの校種で分かれていて分断されています。子どもたちはやりたい競技が学校になれば別の競技をせざるを得ないし、地域のスポーツ団体では(1校1チーム制による縛りのある中体連主催等)大会へは出場できません。また、運動部に所属している子どもたちには指導者や場所と機会が保証されていますが、「週1回程度スポーツを学校の仲間と楽しみたい」という思いをもった子どもたちには保証されていないのが現状です。このことはスポーツをする子と、しない子の二極化を推し進めていることにもなり、燃えつき症候群や、又は運動不足や肥満傾向などにもはっきり見えています。

次に社会体育から捉えてみると、多くの市町村の各種大会やイベントなどでは、まだまだ行政が主体となった行事が中心であり、体育指導員や社会体育担当者は、それら行事の計画や運営をすることで多忙を極めていきます。そのような現状の中で、なかなか新たなスポーツ行事を考える時間や余裕がないように思われます。また、参加する人達が同じ顔ぶれであることや運営のマンネリ化、若い青少年層の参加の減少などの課題がみられます。

以上のことをふまえ総合型地域スポーツクラブについて考えることは、学校教育と社会体育の抱える課題を見直す契機となると思います。イベントのスリム化や主体的な地域住民の運営参加が図られることで、生涯スポーツ振興のあり方を見直す事もできるでしょう。これからは住民の誰もが気軽にスポーツを楽しめ、子どもからお年寄り、障害者までもが加入できるクラブづくりを中心に進めていかなければならないと思います。

それでは次に、地域や住民のニーズを探りながら生涯スポーツの普及と発展に取り組んでいる香南市香我美町の「NPO法人かがみスポーツクラブ」をご紹介します。



「NPO法人かがみスポーツクラブ」は、総合型地域スポーツクラブとしては県内では最も早い2002年7月に、旧香我美町とスポーツ振興くじ(toto)の助成を受け設立されました。

1年目は地域のニーズを探ることに重点を置き、クラブマネージャーを採用するなど、行政主体の活動から地域住民主体のスポーツ活動へ移行する足がかりをつくりました。2年目でNPO法人を取得。町より施設委託を受け、行政や企業との連携を図りながら活動を展開していきました。3年目になり2年間のニーズ調査の結果を分析、それをもとに多世代・多種目のスポーツスクール、スポーツセミナー、健康スクール、健康セミナー、健康事業や、毎月1回以上のスポーツイベントを開催していき、会員も大幅に増加。体育会など既存のスポーツ団体を母体とせず・・・「勝敗も大切だが、健康や仲間づくりをしたい」「やりたい競技がない」とこれまで活動の機会に恵まれなかった市民が多く会員になっているのが特徴です。

講座も48講座あり、ヨガから将棋などそれぞれのスタイルに応じて活動ができるように、多種、多彩な競技をそろえています。中でもサッカーU-12、ゴルフの講座が大人気で40人を超える会員が競技を楽しんでいます。5年前からすると会員も大幅に増え、現在は454名。旧香我美町外の方が318名を占めています。ボランティアも100人を超え、地域の協賛企業も41社を数える等、クラブ全体の動きも更に活発化しています。年会費は保険料込みで一般5,000円。別に受講料が必要な講座もありますが、受講料を払うことで

真剣度も増し「受講料が高い！」という声は聞かれないということでした。財源確保も大変ではないかとお聞きしたところ開設した全講座すべて黒字で、収入のうち年会費と受講料の合計は市からの事業委託料を上回るなど、クラブの自主運営もしっかりと進んでいるようです。

今回は東部管内のクラブを紹介させて頂きましたが、他の地域でも過疎化ならではのアイデアを取り入れたクラブや学校運営や部活動と連携したクラブ等など『形に』とらわれず地域の実情にあったクラブづくり、運営に取り組まれているようです。私たちの周りでも「いつでも、だれもが、いつまでもスポーツを楽しめる」そういう場があればスポーツを通した**明るいまちづくり**が広がるのではないのでしょうか！